

令和 4 年 6 月 3 日現在

機関番号：34314

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19K02440

研究課題名（和文）道徳教育における評価の問題 「社会情動的学習」に着目して

研究課題名（英文）Assessment in moral education-focussing in Social emotional learning

研究代表者

田中 耕治（Tanaka, Koji）

佛教大学・教育学部・教授

研究者番号：10135494

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、道徳教育における評価のあり方を明らかにするために、おもにアメリカの小学校で行われている「社会情動的学習(Social Emotional Learning:SEL)」に焦点をあて、喫緊の課題である道徳評価の内容と方法について示唆を得ることにある。

そのために、申請者と長年学術交流のある、San Francisco Unified School District の管轄のClarendon Elementary Schoolの協力を得て、「社会情動的学習」の指導と評価の実相とそのあり方を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

道徳教育における評価のあり方を問う研究や実践が十分に進展していない現状を打破するために、本研究では、米国において実践されている「社会情動的学習」に着目し、その実践の具体相を明らかにすることによって、その示唆を得ようとした。

とりわけ、エスニック・スタディーズと社会情動的学習のクロス実践例は、日本においても大きな示唆を与えてくれることだろう。

研究成果の概要（英文）：In this study, in order to clarify the ideal way of evaluation in moral education, we focus mainly on "Social Emotional Learning: SEL" conducted in elementary schools in the United States, and to obtain suggestions on the content and methods of moral evaluation, which is an urgent issue.

To this end, in cooperation with Clarindon Elementary School, which has long had academic interaction with the applicant, in the jurisdiction of the Francisco Unified School District, we clarified the actual situation and the ideal way of teaching and evaluating "social and emotional learning".

研究分野：教育学

キーワード：道徳教育 教育評価 社会情動的学習 エスニック・スタディーズ

### 1. 研究開始当初の背景

2017年の新学習指導要領の改訂において、「特別の教科道徳」が提起されて以降、そのイデオロギー的批判とともに、教育現場からは、即座に「道徳をどのように評価するのか」という不安と懸念の声が上がった。それらの声には、「はたして道徳を評価できるのか」「評価しなくてはならないとすると、どのようにするのか」という内容が含まれていた。そこには、道徳評価の困難さ、すなわち、子どもたちの内面の心のあり方(「内心の自由」)に関わり、しかも長期波動(発達)の中で把握する必要があるという認識が共有されていたからであろう。教育方法学における評価のあり方を長年探究してきた申請者にとって、その声は抜き差しならない課題だと受け止め、本研究のメインテーマとして「道徳教育における評価の問題」とした。もとより、評価対象である道徳教育に関しては、哲学的、歴史的レベルにおいて多様で重層的な研究蓄積がなされている。本研究においても、「道徳の教科化」を契機として活発化した道徳教育に関する諸研究の蓄積から大いに学びたい。

ただし、教育方法学からのアプローチとしては、それらの理論的蓄積の整理、解釈にとどまるわけにはいかない。あくまでも、道徳教育の実践場面から評価のあり方を探究すべきであると考え。しかし、日本において、道徳評価の実践は端緒に就いたばかりである。この分野で、たとえばブルーム(Bloom,B.S)の情意領域(affective domain)のタクソノミーの提案やコールバーク(Kohlberg,L)の道徳性発達論の蓄積のあるアメリカにおいて、学校教育において日常的に実践されている「社会情動的学習」に注目して、日本の教育実践への示唆を得たいと考えた。

### 2. 研究の目的

「社会的情動学習」の目的とは、「情動」の認知と扱い方ならびに他人との共感的な思いやりのある「対人関係」を学ぶことである。最近では、対人関係に発する「いじめ」や「ひきこもり」に悩む日本の教育界でも注目、紹介されるようになった。その国際報告書である、『社会情動的スキル』明石書店,2018年刊が上梓、翻訳されたばかりである。しかしながら、「社会情動的学習」の実践の実相やさらにはその評価がいかになされているのかについて、十分に明らかにされていない。本研究では、申請者と長年学術交流のある、San Francisco Unified School District の管轄の Clarendon Elementary School の協力を得て、「社会情動的学習」の指導と評価の実相とそのあり方を明らかにしたい。

### 3. 研究の方法

本研究の目的と方法は、「社会情動的学習」の指導と評価の実相とそのあり方を明らかにするために、その実践校である Clarendon Elementary School へのフィールドワークを行う。

Clarendon Elementary School においては、「社会情動的スキル」として、social awareness,self-management,growth mindset,self-efficacy の四領域に焦点を当て、各学年のスタンダードの開発とともに、指導するための指標も提示されていることはきわめて興味深い。さらには、それらの指導をサポートするために、教員用の Let it ripple のビデオや学校用プログラムが開発されている。現地調査では、授業観察とともに、これらの多様な指導教材を入手して分析する。

#### 4 . 研究成果

当初計画では、資料収集や授業観察を兼ねて、渡米して、Clarendon 小学校を訪問し、また当校のスタッフである Junko,Tanaka が来日される際には、研究的実践的知見を深め交流する予定であった。しかし、研究期間の三年間はコロナ禍と重なり、残念ながら直接の交流の機会がかなわず、計画の大幅な変更を余儀なくされた。その中でも、Zoom というツールを活用して、可能な限り、米国の「社会情動的学習」の実相を探る努力を重ねた。本報告書では、米国で勤務する一人の実践家である Junko,Tanaka の実践を具体的に取り上げ、日本の道徳教育ならびにその評価について知見を得ようとした。

その研究成果は、研究成果最終報告書『道徳教育における評価の問題』(全 245 頁)として上梓した。その目次は以下の通りである。

はじめに

- 第 1 章 日本における道徳教育とその評価のあり方(田中耕治)
- 第 2 章 クラレンドン小学校での社会情動的学習(田中淳子) Social and Emotional Learning at Clarendon Elementary School(Tanaka junko)
- 第 3 章 小学校 4 年生の学級での社会情動的学習の実践(田中淳子) Implementation of SEL in a Fourth-Grade Classroom(Tanaka junko)
- 第 4 章 コロナ禍における社会情動的学習の変容(田中淳子) The Transformation of Social and Emotional Learning During the COVID19Pandemic(Tanaka junko)  
参考資料 AppendixA,B, C(Tanaka junko)
- 第 5 章 Retrospective and Prospective on the Educational Assessment in Post-war Japan(Tanaka Koji)

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 田中耕治	4. 巻 32
2. 論文標題 道徳教育における評価の問題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 佛教大学『教育学部論集』	6. 最初と最後の頁 131-151
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 田中耕治	4. 巻 18
2. 論文標題 高大接続における入試のあり方	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大学評価研究	6. 最初と最後の頁 19-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中耕治	4. 巻 38
2. 論文標題 戦後日本の教育方法論史の課題と展望	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本教育史研究	6. 最初と最後の頁 74-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計2件

1. 著者名 田中耕治編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 全三巻合計602
3. 書名 通知表所見の書き方&文例集全3巻	

1. 著者名 田中耕治編集	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 199 × 5巻
3. 書名 学びを変える新しい学習評価	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	Clarendon Elementary School			